

土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2008年度) 報告

2008年9月12日
研究問題検討小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会(委員長:福田 昌史)では16の研究小委員会を設け、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2007年度の研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時：平成20年8月28日(木) 13:00~16:30

場 所：(社)土木学会 講堂

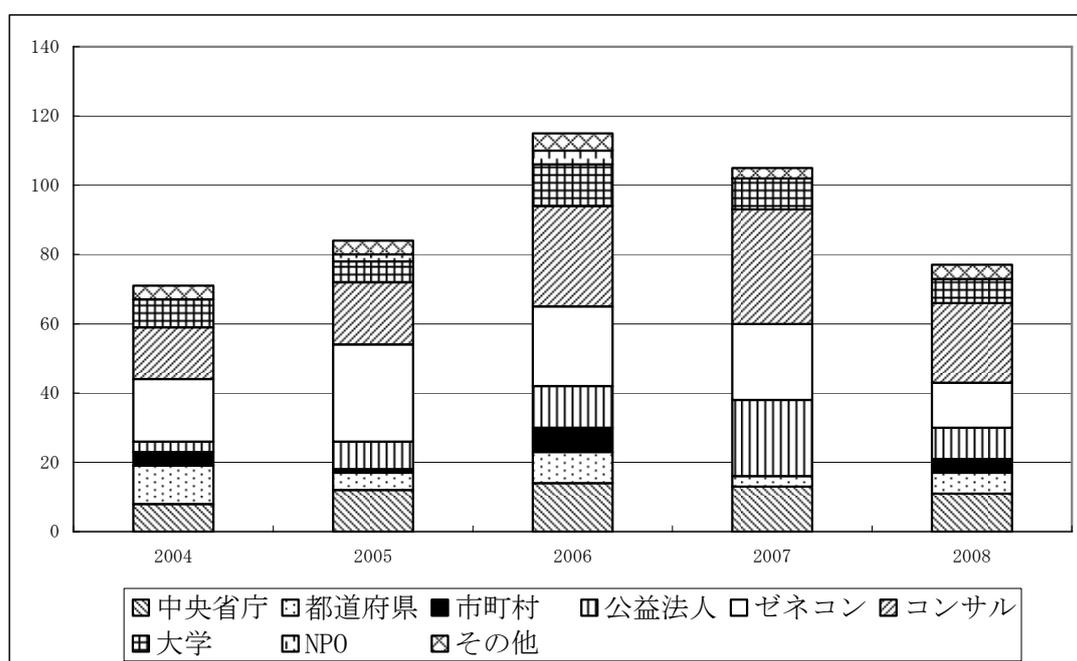
2008年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会 発表プログラム

研究成果発表会(2008年度)		
13:00~13:10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：福田 昌史 委員長
13:10~13:20	土木技術者のための原価管理問題と解説	原価管理研究小委員会 代 表：瀬戸 康平(奥村組) 発表者：井上 英司(大成建設)
13:20~15:00	インフラPFI事業のための技術的課題とその解決 ～適正なインフラPFIの実現に向けて～	インフラPFI研究小委員会 代 表：宮本 和明(武蔵工業大学) 発表者： ① 北詰 恵一(関西大学) ② 大島 邦彦(熊谷組) ③ 渡会 英明(建設技術研究所)
15:00~15:10	休 憩	
15:10~15:40	建設サービスの高度化時代における技術公務員の役割と責務について	技術公務員の役割と責務研究小委員会 代 表：中村 一平(金沢工業大学) 発表者：伊藤 昌勝(ドーコン)
15:40~16:20	地方都市活性化を目指した都市再生事業構想に関する地域マネジメント論的研究 - 事例研究を通して -	地域施設マネジメントシステム研究小委員会 代 表：春名 攻(立命館大学) 発表者：春名 攻(立命館大学)
16:20~16:30	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会：三百田 敏夫 小委員長

3. 参加状況

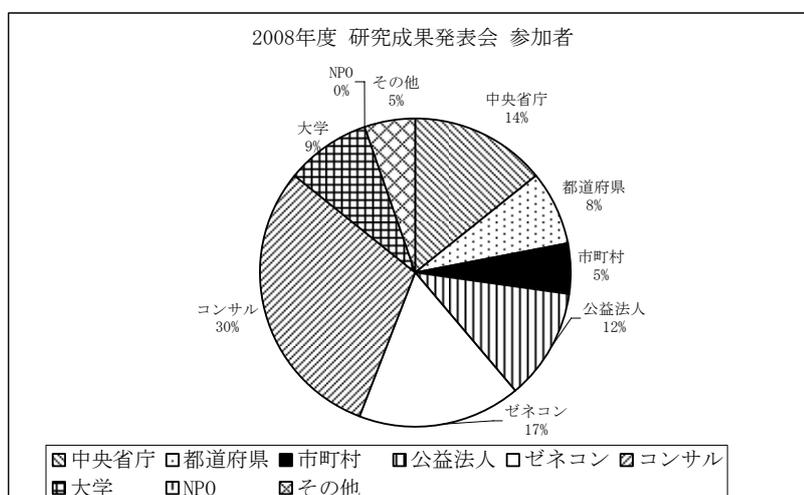
成果発表会の参加状況に関しては、事前申込（2008/08/25迄）が64名、当日参加等も含めた最終的な参加人数が77名と昨年度より減少した。

区分	2004	2005	2006	2007	2008
中央省庁	8	12	14	13	11
都道府県	11	5	9	3	6
市町村	4	1	7	0	4
公益法人	3	8	12	22	9
ゼネコン	18	28	23	22	13
コンサル	15	18	29	33	23
大学	8	6	12	9	7
NPO	0	2	4	0	0
その他	4	4	5	3	4
合計	71	84	115	105	77



2008年度

区分	参加者数
中央省庁	11
都道府県	6
市町村	4
公益法人	9
ゼネコン	13
コンサル	23
大学	7
NPO	0
その他	4
合計	77



－ 参加状況の推移 －



－ 発表会当日の様子 －

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった4つのテーマ（原価管理、インフラ PFI、技術公務員の役割と責務、地域施設マネジメントシステム）の研究成果に関して発表会を開催した。
- 発表会の約3週間前には、建設マネジメント委員会のホームページに開催プログラムを掲載するとともに、各研究小委員会の講演用テキストを適宜、掲載した。
- 閉会の挨拶では、建設マネジメント委員会の16の研究小委員会活動や研究小委員会開催のシンポジウム（ファイナンス手法、環境修復）の開催予定を紹介させて戴いた。
- 本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、参考になった』と回答された方が70%を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものとする。
- 参加者の年齢構成を見ると、30代～50代の方が88%を占めるのに対し、20代の方は5%と非常に少ない状況にある。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、昨年度同様、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考えた。
- 3.参加状況に示したとおり、参加者が減少した主要因としては、例年よりも広報活動が遅れてしまった点等が考えられ、次年度の研究成果発表会に向けては、本年度末より企画を準備するとともに、本年実現できなかったパネルディスカッション等、構成自体の改善を図りたいと考える。

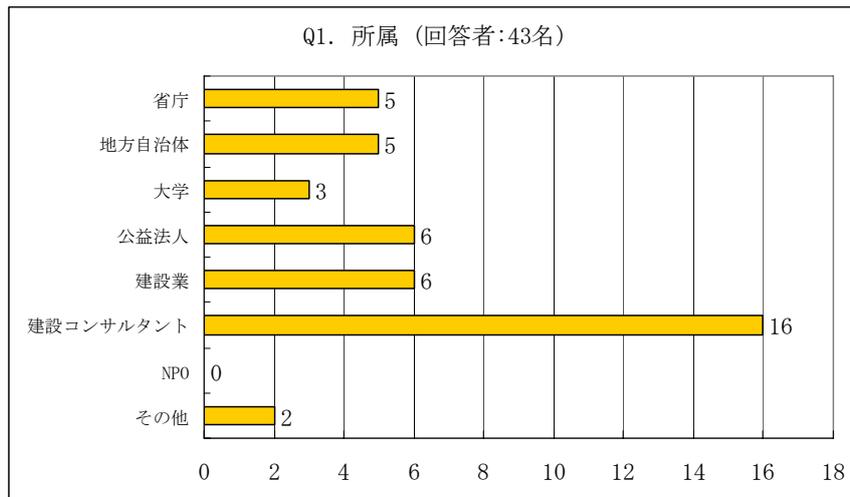
(3) 今後の方向性

- 先述のとおり、昨年度に引き続き、成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、今後の委員会活動に反映できるようにフィードバックしたいと考える。(ex. 研究小委員会の中間報告書のWEB公開、論文査読要領掲載の研究分類に対する質問等)
- 前年度同様、研究成果発表会は土木学会（講堂）において開催したが、将来的には個別の研究成果に対してニーズの高い自治体等での研修会（有料）を視野に入れて、活動を拡大していくことが重要と考える。

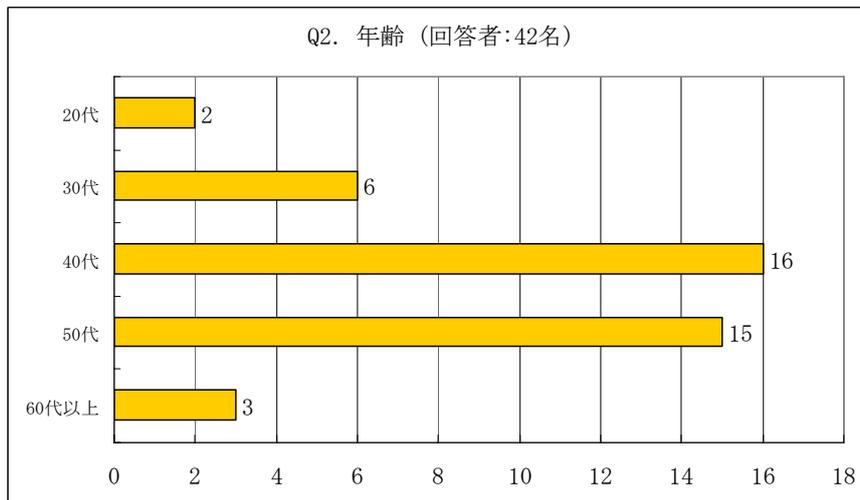
以 上

《 研究成果発表会 アンケート調査結果 》

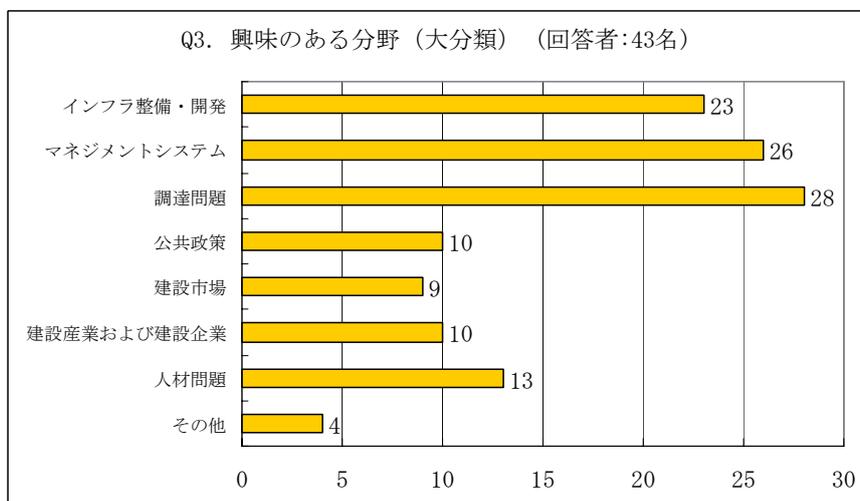
(1) 回答者の所属構成



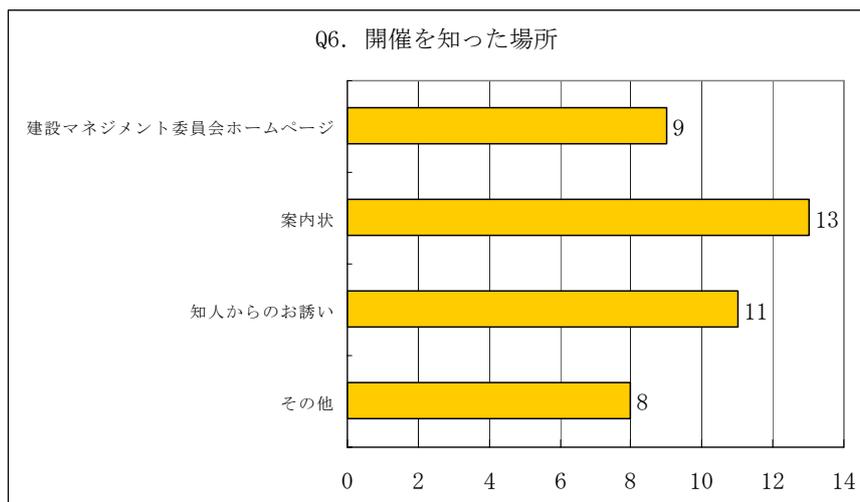
(2) 回答者の年齢構成



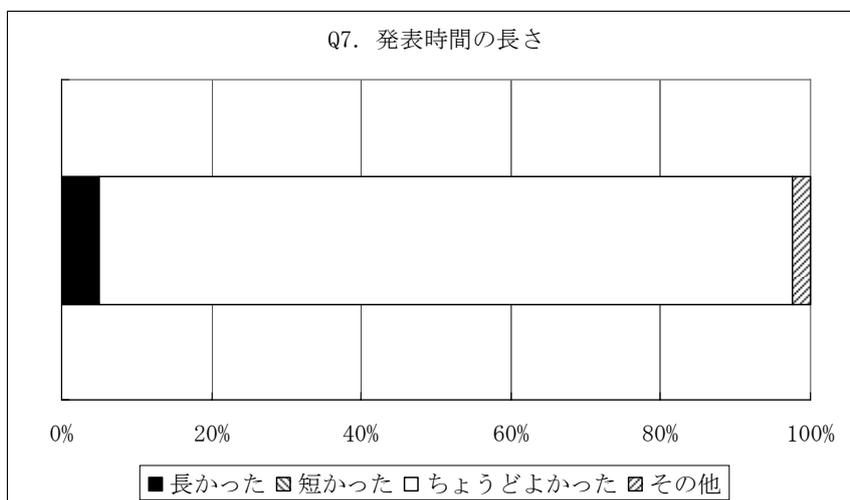
(3) 興味のある分野 (大分類)



(4) 開催を知った場所



(5) 発表時間の長さ



(6) 参加目的の達成

